

ティーチング・ポートフォリオ

今井久美子

(記入日：2019 年 9月 23日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

栄養士の専門教育科目である栄養指導論 (1)、(2) (2 年前期選択必須科目、後期選択必須科目 各 2 単位)、栄養指導基礎実習、ウェルネス栄養指導実習 (3 年前期選択必修科目、後期選択必修科目 各 1 単位)、臨床栄養学、臨床栄養学実習 (2 年前期選択必須科目 2 単位、後期選択必須科目 1 単位)、公衆栄養学 (3 年前期選択必修科目 2 単位) など、他に女性文化史 (2) (選択必修科目、他学科開放 2 単位：分担) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、社会学士としての栄養士育成である。栄養士の役割の一つに、健康維持・増進および生活習慣病予防と重症化予防、疾病の治癒と重症化予防に対する栄養基準を求め、基準に従った食の提供がある。よって、対象者とその周りの社会環境などを理解し、科学的根拠に基づき客観的な情報の解析、栄養問題点を見出し、主体的に問題解決ができる基礎的な知識と実践的な能力、併せ人が対象であることを忘れない心を身に着けた学生の育成に努めている。また、女性の社会貢献のあり方なども目標としている。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

栄養指導論 (1) では、独自の講義プリントやリアクションペーパーなどで基礎知識の教授と確認を行っている。応用力を養う (2) は、栄養基準などを求めるプリントを作成、課題に従い学習を進めている。また、卓上メモを作成し、鶴雅祭にて展示している。栄養指導実習の基礎では、自己の健康管理とし食事調査、基礎体温と体重を測定する情報収集、データ解析と問題点の探り方など、問題点の解決方法について各自が、科学的根拠に基づいた食事と身体状況の双方から健康についての学びを展開している。ウェルネスでは、集団を対象とした栄養指導の実践として、学生自身が問題点を見つけ、栄養指導の計画立案、原稿、プリント媒体を作成しプレゼンテーション (3 分間) を実施している。さらに、栄養指導時のクライアント側の反応を学生が考えることができるロールプレイングを実施している。栄養指導の集大成として、自己の健康管理を主眼に置いた食育絵本を作成し、同意を得た学生の作品のみ、鶴雅祭で展示して

いる。いずれの実習も 1 冊のファイルに内容がまとめ、自己評価をし提出、コメントをつけ返却している。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

栄養指導では情報を解析するため、計算をしなければならないこと多く、多数の学生が難儀をしている状態である。担当者として、どうしたら理解してもらえるのか悩ましい課題である。栄養指導論（2）からこうした課題を少しずつ入れ、リアクションペーパー、定期試験にて出題するも、終わるとすぐに忘れてしまう傾向は否めないが、実習レポートの課題では、時間をかけ、仲間と取り組む学生も多く、一生懸命頑張る姿が見られる。なお、わからない学生には、個別対応に応じている。一方、本学科の学生は、食卓メモやプリント、食育絵本、ロールプレイングなど、計算以外の部分ではとても良い作品を作る学生が多く、実践的な指導ができると評価できる。

5 今後の目標（これからどうするか）

計算嫌いにならない授業の展開では、現状以上に繰り返しを取り入れる予定である。わずかであるが、2年間に及び栄養指導の講義から、情報収集もまとめという段階になりデータが視覚的（図表）に示されると、興味を持つ学生もいることは嬉しい思いである。興味を持つと「なぜ」という疑問を必然的に湧くようである。また、作品作りや人に対する向き合いかたの能力はとても高いと思われる学生が多いことから、主体的な興味や関心から「満足感」を味わえる内容を検討中である。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. リアクションペーパー（非公開）
2. テキスト 相川りゑ子、會田久仁子、今井久美子他（2018）、Nブックス 改定 栄養指導論、日本人の食事摂取基準（2015年版）準拠、建帛社、他
3. 学生作品：卓上メモ、食育絵本（公開 展示）

ティーチング・ポートフォリオ

大坂 佳保里

(記入日： 2019年 9月 23日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

食生活論(1年前期選択必修2単位)、公衆衛生学(1年前期選択必修2単位)、コミュニケーション能力基礎演習(2年前期必修2単位)、食品加工学(3年前期選択必修2単位)、生活文化専門演習(3年通年必修4単位)、フードスペシャリスト論(3年前期選択2単位)など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

多様な社会環境に対応できる社会力と豊かな感性を有する栄養士や栄養教諭、家庭科教諭の養成、フードスペシャリスト等の関連資格の取得、加工食品の商品開発を通して食を多角的に捉える力の育成など、学生に専門知識の習得と社会での実践力が身につく、その結果として卒業後に専門職として自身や社会の健康に寄与できるようになることが教育目標である。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

コメントカードの提出を求め、復習内容と予習状況、授業コメント(特に興味を持った点や疑問点など)の記述から、再説明や関連資料の情報提供などを行い、学修が順当に進むように指導した。また自身の食生活調査では、調査紙や集計表の完成、それを基にしたレポート作成の方法を指導した。パワーポイントを活用し、画像や資料を提供することで、理解度が深まるようにした。商品開発のために活用する資料について提示、ディスカッションを促した。また、文献検索の方法として、食専門の外部施設の見学を行った。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

授業の復習はノート作成が中心で、予習はテキストを読むことが中心であったが、一定の学修時間が確保されていることが確認できた(エビデンス1)。食生活調査では実施感想の発表やレポートを通し、栄養士を目指す自覚が醸成しつつあることが確認された(エビデンス2)。商品開発のコンペティションで1位と2位を獲得し、商品化が決定した(エビデンス3)。

5 今後の目標 (これからどうするか)

レポートから、専門知識を垂直方向に捉え、他の科目との関連性を見いだせていない事例も散見されたので、関連科目のテキストを授業に取り入れ、横断

的に専門知識を集積して活用できるように指導したい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 コメントペーパー（非公開）
- 2 調査票（非公開）、レポート（非公開）
- 3 テキスト 共著（2012）新版食べ物と健康 食品学各論

ティーチング・ポートフォリオ

高山 啓子

(記入日：2019 年 9月 23日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎ゼミナール (必修 2 単位)、プレゼミナール (必修 2 単位)、景観論 (選択必修 2 単位)、観光社会学 (選択必修 2 単位)、観光文化実践 II (選択必修 2 単位)、フィールドワーク法 (選択必修 2 単位)、観光文化専門演習(1)(2)、卒業研究演習、社会学(1)(2) (選択必修 2 単位)、社会学概論(1) (選択必修 2 単位)、社会学概論 (生活文化学科必修 2 単位)、ジェンダー社会論演習(1) (大学院選択必修 2 単位)、メディア研究 III(1) (大学院選択必修 2 単位)、修士論文指導 (大学院) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

社会のさまざまな現象 (観光を含む) に対して学生自身が関心を持ち、それぞれの問いを立て、分析できるような機会をつくること、またそれらを協同して行えるようになることを目指している。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

講義形式の授業では、学生がその回のテーマに関する課題 (シラバス事前学修で提示) について自分の考えをまとめ、それを複数の学生同士で意見交換、ディスカッションをした後、相互の考えに対する意見、感想をまとめたものを提出するという方法をとっている。基礎ゼミナールや観光文化実践などではグループワークを行い、研究報告、現地調査などを行なっている。大学院ではより専門的な関心に沿ったテキストを取り上げ、研究報告を行っている。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

各科目において、比較的学生の自主的な関心を高め、学生同士の価値観、考え方の違いに気づいて自分の考えを持たせることができた。ただし学生によって、取り組みにばらつきがあることがわかった。

5 今後の目標 (これからどうするか)

自主的な取り組みに消極的な学生にそれを促す具体的な方法を検討したい。
またより意欲のある学生に対する、別の課題などを検討したい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

授業で提出されたコメントペーパー、レポート（非公開）

ティーチング・ポートフォリオ

永嶋久美子

(記入日：2019年 9月23日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

調理学 (1年後期選択必修科目2単位), 調理学実験 (2年前期選択必修科目1単位), 給食経営管理論 (2年前期選択必修科目2単位), 給食管理実習 (1) (3年前期選択必修科目1単位), 栄養教育実習演習 (事前・事後指導) (3年通年選択必修科目1単位) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、科学的根拠に基づいた食、栄養、健康、調理を理解し、その問題解決に向けた行動をPDCAサイクルによって主体的に取り組む力を身に付けることである。また、これらの力を身に付けた実践力のある栄養士、栄養教諭養成を目指している。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学習を進めるにあたり、調理学では一般的な調理例をあげ科学的根拠の学習を進めている。また、調理学実験においては、これらの学習を実験により明らかにしデータの分析および考察をグループワークにより実施した。最終的に各自がレポートを作成し、補足部分、評価は学生にフィードバックした。

給食経営管理論では身近な事例および給食施設の事例を例に挙げ、ワークシートを活用しながら学習を進めた。実際の現場の状況を学ぶため映像資料などを活用した。給食管理実習(1)ではグループワークによる実習を主体的に進めるため、実習ごとに担当を決め、献立、作業、指導計画を進め、実施、評価、改善のためのディスカッションを実施した。これらの学習を円滑に進めるため、学生控室などを利用した。

栄養教育実習演習(事前・事後指導)では、栄養教諭として実践的な学習をするため、生きた教材である学校給食を教材として取り上げた学習指導案の作成および模擬授業などを実施し、ディスカッションにより授業内容の評価および改善などを行った。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

すべての科目において学生相互が自主的に学び合い、授業時間外に学修時間を設けていることが確認できた(エビデンス1)。調理学実験, 給食管理実習(1),

栄養教育実習演習（事前・事後指導）のレポートおよび報告書などの作成では専用の教材を使用した（エビデンス 2）。調理学および給食経営管理論では参考資料およびワークシートを配布し、事前・事後学修を促すとともに実践的な理解につながった（エビデンス 3）。給食経営管理論、栄養教育実習演習（事前・事後指導）では現場における実践状況を理解するため映像教材を活用したところ、基礎的学習内容を実践的な視野でとらえることにつながった（エビデンス 4）。

5 今後の目標（これからどうするか）

調理学実験および給食管理実習（1）などで学生同士が授業時間外に検討、議論し、資料収集、データ分析などを行う機会を増やす（ラーニング・コモンズ）。また、事前・事後学修を継続的に進められるよう、資料収集及び分析などの具体的提示を行う。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 リアクションペーパー（非公開）
- 2 テキスト 村山篤子他（編著）（2002）調理科学 建帛社
大羽和子他（編著）（2003）調理科学実験 学建書院
岡本裕子他（編著）（2019）給食経営管理テキスト 学建書院
文部科学省（2011）調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 学建書院
笠原賀子（編著）（2009）栄養教諭のための学校栄養教育論補訂 医歯薬出版 など
- 3 参考資料およびワークシートなどの配付（非公開）
- 4 映像資料 金田雅代（総監修）（2014）学校給食管理実践ガイド 丸善
など

ティーチング・ポートフォリオ

渡邊 昭彦

(記入日： 2019年 9月 23日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

- ・臨床医学

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

- ・管理栄養士国家試験で合格点をを目指す
- ・栄養士として必要な臨床医学的知識を習得する

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

- ・基本的知識の習得；国家試験ガイドラインに基づいたレクチャー
- ・基礎的知識の確認；練習問題演習
- ・試験対応演習；国家試験過去問題の検討・解説

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

- ・国家試験過去問題を編集した試験問題において、大多数 (80%以上) の学生が合格点に達した

5 今後の目標 (これからどうするか)

- ・弱点が個々の学生によって異なるため、その対策を検討しなければならない

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

- ・管理栄養士国家試験ガイドライン
- ・管理栄養士国家試験過去問題 (過去のガイドラインに準拠する問題も含む)

ティーチング・ポートフォリオ

齋藤 美重子

(記入日：2019年9月22日)

1. 教育の責任

担当科目：社会生活入門 (1) (1年前期必修科目 2単位)、社会生活入門 (2) (1年後期必修科目 2単位)、サービス産業論 (2～4年前期選択必修科目 2単位)、消費生活論 (2～4年前期選択必修科目 2単位)、ライフマーケティング論 (2～4年前期選択必修科目 2単位)、コミュニケーション能力基礎演習 (2年前期必修科目)、生活文化専門演習 (3年通年必修科目 4単位) ワーク・ライフ論 (2～4年後期選択科目 2単位)、ワーク・ルール論 (2～4年後期選択必修科目 2単位)、フードビジネス入門 (2～4年後期選択必修科目 2単位)、家庭科教育法 (2～4年後期選択必修科目 2単位)、家庭 (1～4年後期選択必修科目 2単位)

2. 理念

私の教育理念・目標は、学生が生活者の視点をもち、生活を総合的に捉え、かつ生活課題を科学的に分析し、人と環境との関係性を探究する力をつけることである。そうした学修をとおして人間関係形成能力、論理的思考力、問題発見・判断能力を培い、自分らしい最善の生活を営み、将来にわたり学び続ける態度を育成するとともに、社会に貢献できる人材を育成することである。

3. 方法

社会生活入門、サービス産業論、消費生活論、ライフマーケティング論では、各自の課題探究と、ブレインストーミングやKJ法を用いたグループ学習により多様な意見を吸収させ、発表、再び個人で考察する時間を設けるという往還の中で深い学びを促す。また、社会生活入門では、オーセンティックな学びをもたらすために、セクソロジー第一人者の先生やゲノムの専門家、実践家の方を招聘する。さらに、異世代交流を行うことにより、ケアを必要とするものの課題と人間関係形成能力育成に資する。生活文化専門演習ではフィールドワークを行い、文献資料の理解を深め現状分析を促す。コミュニケーション能力基礎演習では、学生同士の対話や主体性を促進させるために、グループごとに課題を自ら設定させディベート(事前調査を含む)を行う。家庭科教育法では、知識と実習を融合させて、知識の定着を図り、よりよい教育方法について授業案を作成することをとおして探究させる。模擬授業の実践、学生同士のディスカッションにより振り返って、再度修正した模擬授業案を作成させることで学び

を深める。

4. 成果

社会生活入門では、異世代交流である保育園での実習後や専門家の招聘のリフレクション・シートには癒し癒される関係性や、子どもを取り巻く環境、キャリアと生活等について深く考察したことがわかった(エビデンス①、②、③)。生活文化専門演習ではフィールドワークを行い、文献資料の理解を深め、さらに現状把握と今後の課題について探究できた(エビデンス①、②)。サービス産業論、消費生活論、ライフマーケティング論、コミュニケーション能力基礎演習では、学生同士が主体的に学び合ったことが確認できた(エビデンス①)が、授業時間外の学修には結びつかなかった。

5. 今後の目標

ラーニングコモンズを活用し、学生同士が授業時間外にも対話をして、資料収集やレポートを検討する機会を増やす。また、リフレクション・シートをさらに活用し、再考を促して生涯をとおして学び続けるよう、主体的に学ぶ態度を育成したい。

6. エビデンスとなるもの

- ①リフレクションペーパー(非公開)
- ②レポート(非公開)
- ③生活文化学科ホームページ(公開)

<https://www.kgwu.ac.jp/2019/06/03/%e3%80%8c%e7%a4%be%e4%bc%9a%e7%94%9f%e6%b4%bb%e5%85%a5%e9%96%80%e3%80%8d%e2%80%95%e6%9d%91%e7%80%ac%e5%b9%b8%e6%b5%a9%e5%85%88%e7%94%9f%e3%82%92%e3%81%8a%e8%bf%8e%e3%81%88%e3%81%97%e3%81%a6%e2%80%95-2/>

<https://www.kgwu.ac.jp/2019/06/27/%e7%a4%be%e4%bc%9a%e7%94%9f%e6%b4%bb%e5%85%a5%e9%96%80%e2%80%95%e5%9c%92%e5%85%90%e3%81%a8%e3%81%ae%e3%81%b5%e3%82%8c%e3%81%82%e3%81%84%e4%ba%a4%e6%b5%81%e2%80%95-2/>

ティーチング・ポートフォリオ

佐久間美穂

(記入日：2019年 9月23日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

- ① 幼児教育学科：社会福祉（1年前期選択必修科目2単位）、社会的養護（2年前期選択必修科目2単位）、相談援助（2年後期選択必修科目2単位×2クラス）、家庭支援論（3年前期選択必修科目2単位）社会的養護内容（3年後期選択必修科目2単位×2クラス）、保育実習演習Ⅱ事前・事後指導（3年通年選択必修科目2単位）、保育実習Ⅱ（3年生通年選択必修2単位）等。
- ②生活文化学科：社会福祉概論（2年前期必修科目2単位）、社会福祉概論（2年後期選択科目）

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

保育士、栄養士、医療秘書実務士の資格取得のために必要となる社会福祉関連の専門的知識・技術の習得、主体的に適応できる能力の育成を目指す。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

事例や体験型のワークを用いて、学生自身が主体的に考え、記述し、それを基にグループワークあるいはクラス全体で共有化し、個々にリフレクションを行うとする双方向の授業形態をとる。工夫した点は、学生自身で考え、記述する時間の確保、終了前の個々のリフレクション等から学修意欲の維持と成果を実感できるように配慮している。ワークシートは内容確認と修正、コメント等を加え、学生に返却し、授業全体を通じた学修成果を確認できるようにした。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

返却されたワークシートから、学生自身が授業内容の確認と学修の成果を把握することができた (エビデンス①②)。実習関連授業では、自身の実習内容を省察し、全体・個別を含め、努力すべき内容が確認された (エビデンス③)。

5 今後の目標 (これからどうするか)

制度の改正が多い福祉の関連法の状況を確認し、最新情報を授業内容に反映させ、新カリキュラムに合わせてワーク等の内容を随時変更・修正していく。

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

- ①ワークシート類 (学生に返却しているため、非公開)
- ②授業終了時に該当科目での自身の学びを記したペーパー (600字程度・非公開)
- ③幼児教育学科の学修ポートフォリオ

ティーチング・ポートフォリオ

佐藤 真弓

(記入日： 2019年 9月 24日)

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

現代の社会（共通教育科目選択必修2単位）、ジェンダー研究入門（共通教育科目選択2単位）、環境社会論（専門科目選択必修2単位）など

2 理念（なぜやっているか：教育目標）

私の教育理念・目標は、現代社会における様々な諸相についてその本質的要因を探り考察し、それらを自分自身の生活課題としてとらえようとする主体性を養うこと、よりよい生活、人生を送るために、それら社会的課題に対してどのような解決法があるかを考え、自分らしいライフデザインを構想し実践できる態度を身につける機会を提供することである。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

ワークシートとともにパワーポイントのスライド、DVDなど写真や動画を使用し、毎授業後に小課題レポートを作成させ知識の定着を図った。次の授業では前回の復習を兼ねて小課題レポートの講評を行った。特に環境社会論では書籍を輪読・ディスカッションを行うことにより基礎理論の徹底を図った。また、自ら興味関心のある環境資源について図書館等で文献検索を行いレポートを作成、それを発表しディスカッションを行うことにより、学生が自らの生活課題としてとらえ、主体的な解決法を探ることができるようにした。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

ワークシート、パワーポイントのスライド等の使用で、学生が授業内容により興味をもって集中して取り組めたと考えられる。毎授業ごとの小課題レポートの提出により知識の定着、生活課題の新たな発見などが確認できたが、幅広い視野からの課題設定や主体的な課題解決態度の育成までは至らなかったのではないかと考えられる。環境社会論ではグループディスカッションを主として授業を進め、さらに各自がレポートをまとめ発表、ディスカッションを行うことにより、問題の根本原因を探る態度と、課題解決のための主体性が育成されたのではないかと考えられる。

5 今後の目標（これからどうするか）

受講生が多い場合でもグループワークやディスカッションなど工夫し取り入れていきたい。資料や文献を使用した事前事後学修をより具体的に促す。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

・ワークシート、小課題レポート、パワーポイントスライド、環境社会論レポート

- ・ 佐藤真弓『生活と家族』一藝社（2016） 伊藤公雄他『ジェンダーで学ぶ社会学』
世界思想社（2016） 西城戸誠他『環境と社会』人文書院（2012）
- ・ 映画 DVD 『おはよう』、『Always 三丁目の夕日』、『極北のナヌーク』等

ティーチング・ポートフォリオ

生活文化学科
高橋裕子

(記入日：2019 年 9 月 23 日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

生活スタイル論 (2～4 年選択必修前期 2 単位)、女性文化史 (1) (2～4 年選択前期 2 単位)、製品デザイン演習 (2～4 年選択必修前期 2 単位)、クラフト (染色) (2～4 年選択必修前期 2 単位)、生活デザイン演習 (2～4 年選択必修前期 2 単位)、生活の美学 (2～4 年選択必修前期 2 単位)、女性文化史 (2) (2～4 年選択後期 2 単位)、カラーコーディネート (2) (2～4 年選択必修後期 2 単位)、クラフト (手芸) (2～4 年選択必修後期 2 単位)、生活アート論 (2～4 年選択必修後期 2 単位) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、学生が気候・風土や日常生活の中から物事の起源や先人たちの

知恵などを理解し、現代の身の回りにある資源や環境に関わる問題点を多角的に視る姿勢を身につけ、実践を通して問題解決に結びつく工夫や応用力を養うことである。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学生が主体的に学習するために、生活スタイル論では、DVD で時代ごとのファッションの移り変わりを見て具体的に理解できるようにし、各時代の特徴の解説をした。具体的には、ファッションマップという手法を用いて、プレゼンテーションの資料を作製させた。生活の美学では、1 年間通しての日本における年中行事を季節と食文化との関係を資料と DVD で説明後、食卓のテーブルコーディネート作品の作製について指導を行った。学生は各自の食卓のテーブルコーディネート作品をプレゼンテーションし、学生間でディスカッションをした。生活アート論では、日常生活の中にある衣食住のアート効果を調べ、学生同士でディスカッションすることで、生活の中にある工夫を意識するようにする予定である。女性文化史 (2) では、本学の創立者が女性であり学生も女性であることから、明治～昭和にかけて活躍した女性の生涯にスポットを当て、様々な資料から生き方や原動力を理解し、現代に受け継がれ

た精神について学生間でディスカッションをする予定である。カラーコーディネート (2) では、日常生活が様々な色彩とともに構成されていることを理解するために、**work paper** を使用して具体的に色彩の基礎を学び、生活の中に反映させる予定である。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

全体を通して見れば、日常生活の中で五感を使用する機会が少なくなっているため、

回答が具体性に欠けている。生活スタイル論の衣に関することでは、印刷物や画面で情

報を得ているため、衣服素材の質感や量感などに知識が不足していたが、ファッションマップの演習を通して、自ら触ることで理解することが確認できた (エビデンス 1)。生活の美学では、日常から年中行事まで、食に関して常に意識し疑問を持つようになり、テーブルコーディネートを通して、色彩や食具、食器など幅広く関心を持つようになったことが確認できた (エビデンス 2、3)。女性文化史 (2) では、女性の活躍と生き方からその時代の社会背景を知り、本学の建学の精神に関心を持ち、女性の自覚の意味を理解することを目標とする (エビデンス 4)。カラーコーディネート (2) では、普段何気なく使っている物や見ている物の色彩に関して、理由や仕組みがあることを、**work paper** を使用して仕上げていくことで、具体的に理解してもらい生活の中に活用できるようにする予定である (エビデンス 5、6)。

5 今後の目標 (これからどうするか)

生活に PC やインターネット等が浸透し、今後は AI や IOT 等が普及してくる中、生活文化学科は、衣食住暮らしを学ぶ学科である。私の担当科目の多くは、人間が本来持っている五感も必要としている。災害等のように電力が使用できないときの知恵や工夫—生きる力が必要不可欠である。そのため、学生では入手しにくい資料等もさらに増やしていく必要がある。また、学生相互でディスカッションしコミュニケーションをとる時間や情報交換などを行う機会も増やしていく必要性も感じた。

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

- 1 ファッションマップ (オリジナル)
- 2 テキスト 横川公子 (2011) 『生活をデザインする』 光生館
- 3 テキスト (2010) 『楽しい!おいしい!テーブル・カラー・コーディネー

ト』日本色研事業(株)

4 テキスト 紫雲の会 (2010)『こころ 川村文子の生涯と建学の精神』大巧社

5 テキスト (2012)『ファッション&ビューティーの色彩』日本色研事業(株)

6 「work paper」配色実習台紙、日本色研事業(株)

(記入日：2019年9月20日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

前期：食と生命 (我孫子・目白)、コミュニケーション能力基礎演習、保育実習演習 III、生活文化専門演習、生活文化寺子屋、教職センター、巡回指導後期：保育実習演習 I、女性健康学、総合講座(2)、生活文化専門演習、女性学 (目白)、保育実習演習 III、生活文化寺子屋、巡回指導

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標として、学生に身につけさせたい 3 つの力を挙げる。(1) 物事について主体的に調べ、発信していく力。(2) 多方面にアンテナを巡らし、正しい情報を選択する力。(3) 自身の生活と世の中の状況を結びつけ、生活課題を考えていく力。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

特に共通教育科目では受講者の人数が多いため、講義の時間内に十分な教員と学生との双方向のやり取りの時間を全員に確保することが難しい。そこで、講義内や時間外の課題として学生が記入したリアクションペーパーに対して、教員からのコメントを付けて翌週返却することを心掛けた。また、次週の講義の初めにリアクションペーパーに書かれていた内容のうち優れたものを匿名で紹介するようにした。試験についても、掲示によるフィードバックを行った。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

回を重ねるにつれ、講義開始時に提出課題を出せる学生が増え、記入されている内容も十分なものが多かった【エビデンス (1)】。しかし、個々の学生の記録が学生本人にも教員にも一目でわかるような工夫が必要な点が課題として挙げられた。

5 今後の目標 (これからどうするか)

前期の課題点をふまえ、後期は「ふり返しシート」というポートフォリオ形式の記入シートを用意し、毎講義開始時に配布、講義終了時に学生が各自その日の内容についてふり返し記入したものを回収する形式とした。ふり返しシートは、保育実習演習 III の中で他の先生が使用されていた「出席・課題チェック表」を参考に作成した。

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

(1) リアクションペーパー (非公開)

(記入日：2020年2月20日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

前期：食と生命(我孫子・目白)、コミュニケーション能力基礎演習、保育実習演習 III、生活文化専門演習、生活文化寺子屋、教職センター、巡回指導後期：保育実習演習 I、女性健康学、総合講座(2)、生活文化専門演習、女性学(目白)、保育実習演習 III、生活文化寺子屋、巡回指導

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標として、学生に身につけさせたい 3 つの力を挙げる。(1) 物事について主体的に調べ、発信していく力。(2) 多方面にアンテナを巡らし、正しい情報を選択する力。(3) 自身の生活と世の中の状況を結びつけ、生活課題を考えていく力。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

前期の課題点をふまえ、後期は「ふり返しシート」というポートフォリオ形式の記入シートを用意し、毎講義開始時に配布、講義終了時に学生が各自その日の内容についてふり返し記入したものを回収する形式とした。ふり返しシートは、保育実習演習 III の中で他の先生が使用されていた「出席・課題チェック表」を参考に作成した。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

「ふり返しシート*1」の導入により、毎回の出欠確認の効率化をはかることができ、教員・学生の双方が欠席・遅刻に関する状況を可視化することができた。毎回学生が講義の最後にふり返し内容をシートに記入することで、学生側はこれまでの学習内容をポートフォリオとして蓄積していくことが可能となり、教員側は学生が特に興味関心を持った内容の把握や質問事項に対して対応することができた。

5 今後の目標 (これからどうするか)

ふり返しシートの記入内容や記述量は学生による差が大きかった。今後は、記入枠の大きさを工夫したり、初回配布時やふり返しシートの記入時に記入のめやすを伝えたりするなどの形で学生に声かけを行っていきたいと考える。

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

*1 ふり返しシート (非公開)

ティーチング・ポートフォリオ

甲山 恵美

(記入日： 2019年 9月 24日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

応用調理学実習(1)(2年選択必修科目・1単位)、生化学入門(1年選択必修科目・2単位)、基礎ゼミナール(1年必修科目・2単位)、給食管理実習(2)(4年選択必修科目・1単位)、生命の科学(1)(共通教育・選択必修科目2単位)、食品衛生学実験(3年選択必修科目・1単位)など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

栄養学に関する基礎知識、基礎技術を教授していくとともに、食と人との関わり方について、学生が自分なりの答えを持ち、実践する力を育むことである。学問として学んだことを、実生活につなげ、食に対する知識を深めていく。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

実験・実習科目においては、毎回レポートを提出してもらい、その都度レポートにコメントを入れてフィードバックを行った。授業中に配布する資料や教科書を示し、授業毎の目的をしっかりと理解し、その内容について、要点がまとめられるレポートが書けるように、指導を行った。

専門科目については、プリントを穴埋め式とし、ポイントとなるキーワードを自分で記入してもらうように工夫をした。また最後に、リアクションペーパーの記入を行い、質問があれば、次の授業の開始時に答えるようにした。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

レポートにコメントを入れて、フィードバックすると、次のレポートに改善が見られた。1つの教科書だけではなく、複数の参考文献を調べて考察をする、実験内容に沿った考察が書けるようになっていった。専門科目の試験は、記述式としたが、難しいという声があり、今後の課題とする。

5 今後の目標 (これからどうするか)

専門科目について、事前事後学習ができるように、ワーク式のプリントを配

布し、自主学習を促す工夫を行う。また、新聞記事や雑誌の記事を配布し、授業内容と生活とを結びつけるような工夫を行う。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

レポート

授業配布資料

ティーチング・ポートフォリオ

生活文化学科 講師 築館香澄

(記入日：2019年9月20日)

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

前期：生化学（1年選択必修科目2単位）、基礎栄養学（1年必修科目2単位）、人体の科学（1~4年選択必修科目2単位）、基礎調理実習(1)（1年選択必修科目1単位）、基礎ゼミナール（1年必修科目2単位）、生活文化専門演習（3年必修科目4単位）、卒業研究演習（4年必修科目4単位）

後期：ライフステージ栄養学（2年選択必修科目2単位）、基礎調理実習(2)（1年選択必修科目1単位）、食品学実験（1年選択必修科目1単位）、生活文化専門演習（3年必修科目4単位）、卒業研究演習（4年必修科目4単位）

2 理念（なぜやっているか：教育目標）

私の教育理念・目標は、学生が「食べる」というあまりにも身近で日常的に繰り返している行動について、生化学的視点で生命現象を理解し、自らの健やかな生活と生命を尊重する力を養うとともに、その専門的な知識を持って、どのようにして周りの人々の健康へ寄与できるのか主体的に考え行動する素量を身につけることである。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

学生が主体的に学び考える機会を作るために、生化学・基礎栄養学・人体の科学・ライフステージ栄養学では、映像や多くの図を用い、人体の仕組みや構造、生体内でどのような化学変化が起こるか、その化学変化が生命活動や代謝にどのような役割を果たしているかなどについて、一番身近な自分自身の体として理解できるよう促した。また、單元ごとにリアクションペーパー（エビデンス1）を用い、これらの専門的知識を実生活の中に落とし込んで考える力を養う機会を設けた。基礎調理実習や食品学実験においては、実験実習の実施、実験データを原理などと照らし合わせて考察し、論理的に表現することができるよう、レポートの指導を毎時限に繰り返し行い、事前事後の学習を促した。生活文化専門演習や卒業研究演習においては、学外での学修の機会を設け、より研究内容に興味を持ち自ら学ぶ意欲を持たせるよう促した。最終授業後にアンケートを行い、授業の目的が達成されたか確認した。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

人体の科学・基礎調理実習・食品学実験・生活文化専門演習・卒業研究演習において、授業後のアンケート（エビデンス2）やディスカッションにより、学生が自らの健やかな生活と生命を尊重する力を修得し、周りの人々の健康へ寄与するために主体的に考え行動していることが確認できた。生化学・基礎栄養学・ライフステージ栄養学では、知識の習得に重点が置かれ、自分自身の体で起きている現象としての理解には至らず課題を残した。

5 今後の目標（これからどうするか）

学生が自ら各授業内容に興味を持ち、より学びたいと感じて、自ら学修するためには、わかりやすい授業の中にも、全てを教員が教え学生が受け身とならない部分を設けることが必要であると考え。学生が事前事後の学修によってより授業内容を理解し興味を

もって受講できるよう、学修内容を明確に提示する必要がある。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1) リアクションペーパー(单元ごとの理解と実生活との繋がりについて記載) (非公開)
- 2) 授業後のアンケート (受講前後での考え方の変化、印象に残っている回、教員へのメッセージ等) (非公開)

ティーチング・ポートフォリオ

佐々木唯

(記入日：2019 年 9月 24日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

生活デザイン論、カラーコーディネート(1)、基礎ゼミナール、生活文化専門演習、情報処理(1)、情報処理(2)、生活の数学(1)、生活の数学(2)、女性学(2)、キャリアプランニングⅢ(1)、キャリアプランニングⅢ(2)、キャリアプランニングⅣ(1)、キャリアプランニングⅣ(2)、

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

現代の社会をふまえて、自らの生活スタイルを創造できることを教育目標としている。そのために、日本の近代化の歴史と発展過程を学び、生活の視点から課題を解決する能力を養っている。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

主体的な学習を促す工夫に取り組んでいる。例えば、女性学では、重要なキーワードの中から、身近なテーマを取り上げ、事前学習として資料収集を行い、予習をもとに授業を進めている。学生がいつでも復習を行えるよう、Webを作成し、授業の事後学習ができるように、工夫している。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

実践中のため、結果はまだわからない。Webに授業内容をまとめても、学生は閲覧しないことが多いので、事後学習の促しが、課題である。確認テストを行い、得られた知識の習得を丁寧に評価したい。

5 今後の目標 (これからどうするか)

初年度のため、シラバスをもとに、学生がどのように学習できたか再点検し、不足個所については、補足資料を作成したい。

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

テキスト：住まいのデザイン、朝倉書店、2015

授業のホームページ 非公開

<https://sites.google.com/site/>女性学、情報処理、生活の数学